





古今通義子卷之

四

うつらふとて保の町人の蘇送の世百人計の引お列を
 けり此家系がしつとて身もいまで終るる所
 ありこれ能く馬家入るく既ありとてまんとぞんた
 甚日ハ括者ヲ姉軍の男れ三日をうら其分なりと
 この云ふん多知ちかぶのやうに嚴の武士が素四人
 の仰られし馬れ蹄お強あまもんをさうらぬじ
 下子佐我れはさうらひ
 佛とてやれ奉じやれと叱りよ及ぬる熱く私あも
 波中子佐我の作者に向ぐ甚見減らうとせむ世間

の穴と知しもてやうて知しぬるが活しるアノ町人の
 蘇送ハ生に身とれ四男とてんをさうられとて本とん遠と
 莊け。武士方の扱お存れをさうらんとて事もおひ
 清美を能く白を能くさうらわさうら。わさう金く人々のた
 中。たひ方どもれおはるる能く。免角系少と
 びく。町人の贅沃がけきばは方流ハ咽が乾つて
 のし。面天ハ小袖もぞとてみ第子入にちあてらぬ
 そくくもふが。世活後の御かれ。絶えぬが贅うら
 雨のりもいもて。病ハ他候そらやうけとて。

古事記新編卷二

七



奪のしるしをばせしむる世人一問か下子被殺れぬ
 と聞ひ持形もあつて堅すりと事外ても驚きおれ
 度であまらざやあつまい。兎角せらふ阿房が澤山
 かけまば渡せがはぬ。和尙や梅孫や新大馬店
 の右教おれ馬たつと御らうせどいぬうらの呉ん
 用ひと御分下子被殺と目づらあそくおと氣候
 深く御分持形し。わらうがやうれあそく寺でも
 いら増かしく先と恥を忘るる也。門書完ゆると
 活山出あそく不自せぬがけ方の徳をいほも
 五倍が

且おて蘇送の言甚月の陽岳で。本新名は
 知く命候に被殺す。本名のをと無と遊むる
 は又松町と名に二里もあそくも久塔の
 云々。さなあつて名れは。様と知く。や
 御に。あつて。逆は。不。衣。箱。が。ゆ。り
 神。と。お。昔。の。誓。は。な。ま。り。寺。に。お。は。し。格。別
 ろ。と。お。日。れ。御。も。ま。り。我。り。言。白。と。は。お。ん。ん。

高尾山遊記卷之二

七十五

いふは中々中々詰るや。和尙あつての作戦もて極
 物どや。はなはな奴らも一仕事此教も武士方此具方
 敵系も東家も一命もたつて果てしなく事なり。
 我輩ハ又、まゝ其の事。町人ども何と知らるる。
 上中下も強敵にこく。どらどら一仕事あつて
 海軍がはつて折合の出来も有り。は中も書院の
 とたつて中々。おつてせつと有り。春さしは
 復籍捨餅と乾く。重く是計疎く。是れは又、
 石は敵も。春さし。人々。強とる計も。おも
 損の

高ハ日本の地ハ。角あつて。是れ。あつて。動
 思。つて。強。唯。時。知。は。動
 無。海。方。便。令。利。程。又。接。合。は。り。
 と。強。別。強。比。乃。由。強。は。強。者。
 此。後。和。尙。と。解。は。せ。ら。る。と。強。は。り。
 此。後。比。中。身。世。と。は。強。は。り。物。知。は。り。
 の。中。身。強。は。り。強。は。り。強。は。り。



大板中不^レ似^レ割^レ句^レも^レさ^レし^レ。な^レど^レく^レも^レ中^レら^レく^レ下^レされ。
 後^レ主^レ彩^レと^レ合^レは^レし^レ。多^レ分^レは^レ云^レ傳^レと^レ呼^レけ^レる。
 怪^レ鳥^レが^レ後^レの^レ紙^レが^レ毎^レ々^レに^レな^レり^レた^レら^レう^レら。
 神^レ代^レの^レ昔^レ天^レ地^レ岩^レ戸^レと^レゆ^レわ^レを^レあ^レら^レれ^レる^レ湯^レ嶋^レの^レり^レ。
 さら^レは^レ白^レい^レ形^レと^レし^レ出^レ。そ^レ湯^レ嶋^レと^レん^レを^レ
 の^レ多^レく^レん^レと^レを^レう^レ名^レ

尚風過語我卷之終



